

A 大学生の情報通信機器利用及び インターネット依存の実態について —男女比較から—

中村雅子¹⁾ 福井正康²⁾ 杉山祥子³⁾

1) 福山平成大学 福祉健康学部 健康スポーツ科学科

2) 福山平成大学 経営学部 経営学科

3) 関西福祉大学 看護学部 看護学科

E-mail : masako@heisei-u.ac.jp

【要旨】

本研究においては、A 大学生の情報機器利用やインターネット依存の実態について、男女間の違いを明らかにすることを目的とし、2017年7月にA 大学生（健康スポーツ系）の男子148人、女子139人、計287人に対し、無記名自記式質問紙調査を実施した。

結果、A 大学の学生の情報通信機器の利用状況は、男女ともスマートフォンの利用が最も高く、利用時間も長い結果となった。男女間の比較においては、ゲーム機の利用において、利用状況や利用時間共に男子が有意に高い結果となった。最も利用の高かったスマートフォンについては、利用時間帯は「就寝前」「空き時間」「テレビを見ながら」「起床直前」において、女子が有意に高い結果となった。利用目的は、男女間に差は生じなかった。

インターネット依存については、性別比較の平均点においては、男子の平均点は、36.82点、女子は40.99点であり、女子が有意に高い結果となった ($P<0.001$)。

KEY WORDS : 大学生、情報通信機器利用、インターネット依存

1 はじめに

現代社会はパソコンを中心とした情報通信機器の利用が広範囲となってきた。1992年からは携帯電話が普及し、端末がインターネットに接続が可能となつてからは、急速に普及している。近年は、特にスマートフォンが普及しており、平成29年2月に内閣府が発表した、「平成28年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果」¹⁾から満10歳から17歳までの青少年5000名の内80.2%が何らかの機器によりインターネットを利用しており、そのうちスマートフォンは47.2%であった。又、大学生においては、2018年卒の大学生にマイナビが調査した結果、スマートフォン保有率は98.8%ほぼ全員という結果であり²⁾、中高生と比較しても、大学生におけるスマートフォンの保有率が高く、ほとんどの者が保有しているという現状である。

又、男女比較においては、H30総務省情報通信政策研究所の行った「H29年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告」³⁾において、インターネット依存傾向者の割合が、男子4.1%、女子が4.2%と女子が高かったが、2017年に松嶋らが大学生に調査した結果においてもスマートフォン依存傾向は女性の方が男性より高い可能性がある⁴⁾と報告している。

このような利用状況の中、若者の心身への健康面での障害や、「ネットいじめ」「出会い系サイト」等の問題行動、さらにインターネット依存者の増加など、様々な問題が出現している。特に1998年Young⁵⁾が報告したように、インターネットの急速な普及に伴うインターネット依存が問題となっている。インターネット依存の主な症状として、2008年Blockは、とらわれ(インターネットのことが常に頭から離れない)、コントロール欠如(やめようと思ってもやめられない)、離脱症状(インターネットにアクセスできないと怒りやイライラ、抑うつなどのネガティブな感情が生じる)、耐性(より優れたハードウェアやソフトウェア、より長時間の利用を求める)、虚言(インターネットの過剰利用を隠すため嘘をつく)等をあげている⁶⁾。

A大学生は、スマートフォンはほぼ全員が携帯しており、授業時も調べ学習等に利用している。ただし利用マナーが守れず、授業に集中できない学生も見られる。

本研究においては、A大学生の情報機器利用やインターネット依存の実態調査を実施し、男女について比較分析を行うこととした。

2 目的

A大学生の情報機器利用やインターネット依存の実態調査を男女別に比較し明らかにする。

3 研究方法

(1) 調査対象

A大学生(健康スポーツ系)の男子148人、女子139人、計287人に対し、無記名自記式質問紙を依頼し、記入後回収した。調査時期は、2017年7月とした。

(2) 調査内容

1) 情報通信機器の利用実態(パソコン、ゲーム機、スマートフォン、携帯電話、タブレット端末の利用状況、利用目的)

2) インターネット依存傾向(Youngのインターネット依存傾向尺度20項目)

判定は、70点以上(ネット依存傾向 高)40~69点(ネット依存傾向 中)29~39点(ネット依存傾向 低)の3区分に分類して判定を行った。

(3) 統計処理

統計ソフトは、College Analysisを使用した。情報通信機器の男女別利用実態については χ^2 検定を行った。その際、有意確率は $P<0.05$ を*、 $P<0.01$ を**、 $P<0.001$ を***とした。

(4) 倫理的配慮

アンケート調査は、無記名で行い、記入者の同意を得て行った。研究結果については、研究以外では利用せず、研究終了時点で回収したアンケートは破棄するものとした。

4 結果

(1) 情報通信機器の利用

1) 情報通信機器の利用率

回答した全ての大学生の情報通信機器の利用率について、男子で最も多かった回答は、スマートフォン(93.9%)であり、パソコン(54.7%)、ゲーム機(31.8%)、タブレット端末(13.5%)、携帯電話(10.1%)であった。女子で最も多かった回答は、男子と同じスマートフォン(90.7%)であり、パソコン(62.6%)、携帯電話(11.5%)、タブレット端末(9.4%)、ゲーム機(8.6%)であった(図1)。

性別と利用機器の各項目を χ^2 検定を行ったところ、男子にゲーム機利用の有意差がみられた(表1)。

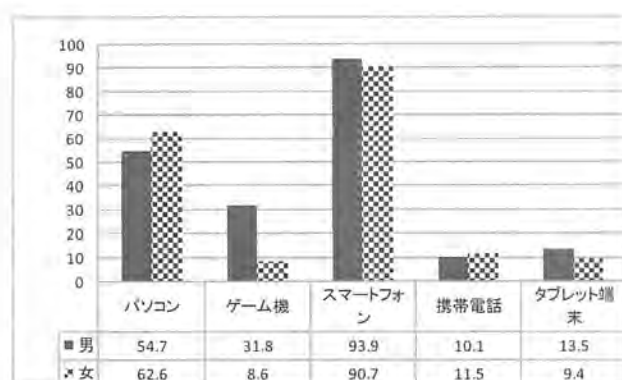


図1 男女の情報通信機器別利用率

表1 情報通信機器の利用者の男女比較

	男子	女子	自由度	χ^2	p 値
パソコン	54.7%	62.6%	1	1.5151	0.218
ゲーム機	31.8%	8.6%	1	22.0739	0.000 ***
スマートフォン	93.9%	90.7%	1	0.6709	0.412
携帯電話	10.1%	11.5%	1	0.0342	0.853
タブレット端末	13.5%	9.4%	1	0.8449	0.358

2) 情報通信機器の平日利用時間

平日のパソコン利用時間について、男子で最も多かった回答は、「使っていない」(63.2%)、次いで「3時間未満」(30.5%)、「3時間以上」(6.3%)であった。女子で最も多かった回答は「使っていない」(53.8%)、次いで「3時間未満」(42.0%)、「3時間以上」(4.2%)であった(図2)。平日のパソコン利用時間について男女に有意差は見られなかった。

平日のゲーム機の利用時間について、男子で最も多かった回答は、「使っていない」(77.0%)、次いで「3時間未満」(23.0%)、「3時間以上」(0%)であった。女子で最も多かった回答は「使っていない」(95.1%)、次いで「3時間未満」(3.8%)、「3時間以上」(1.1%)であった(図3)。平日のゲーム機利用時間について χ^2 検定を行ったところ、使っている割合が男子が有意に高かった ($P < 0.05$)。

平日のスマートフォンの利用時間について、男子で最も多かった回答は、「3時間以上」(68.6%)、次いで「3時間未満」(22.6%)、「使っていない」(8.8%)であった。女子で最も多かった回答は「3時間以上」(73.9%)、次いで「3時間未満」(18.8%)、「使っていない」(7.3%)であった(図4)。平日のスマートフォン利用時間について男女に有意差は見られなかった。

平日の携帯電話利用時間について、男子で最も多かった回答は、「使っていない」(87.5%)、次いで「3時間以上」(10.8%)、「3時間未満」(1.7%)であった。女

子で最も多かった回答は「使っていない」(78.8%)、次いで「3時間以上」(14.6%)、「3時間未満」(6.6%)であった(図5)。平日の携帯電話利用時間について男女に有意差は見られなかった。

平日のタブレット利用時間について、男子で最も多かった回答は、「使っていない」(86.6%)、次いで「3時間未満」(15.4%)、「3時間以上」(0%)であった。女子で最も多かった回答は「使っていない」(89.6%)、次いで「3時間未満」(9.0%)、「3時間以上」(1.4%)であった(図6)。平日のタブレット利用時間について男女に有意差は見られなかった。

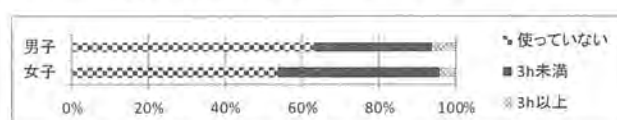


図2 平日のパソコン利用時間の割合

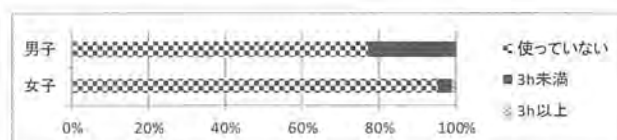


図3 平日のゲーム機利用時間の割合

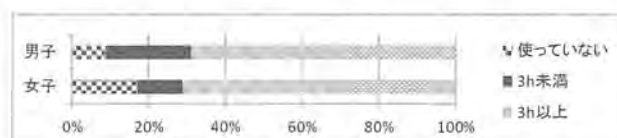


図4 平日のスマートフォン利用時間の割合

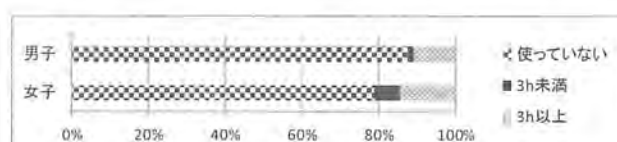


図5 平日の携帯電話利用時間の割合

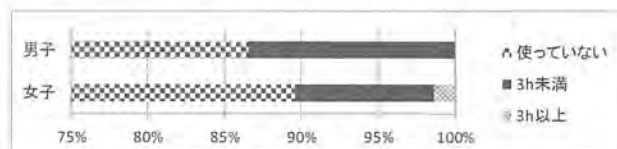


図6 平日のタブレット端末利用時間の割合

3) スマートフォンの利用時間帯

A 大学生が最も利用しているスマートフォンを利用する時間帯は、男子で最も多かった回答は「就寝前」(75.0%)であり、次いで「待ち合わせなどの空き時間」(70.95%)、「移動中」(55.41%)、「起床直前」(25.0%)、「トイレの中」(25.0%)、「授業中」(20.95%)、「友達といるとき」(20.27%)、「食事中」

(14.19%)、「入浴中」(8.78%)であった。

女子で最も多かった回答は、「就寝前」(86.33%)であり、次いで「待ち合わせなどの空き時間」(82.73%)、「移動中」(66.19%)、「自宅でテレビを見ながら」(60.43%)、「起床直前」(40.29%)、「友達といるとき」(29.50%)、「授業中」(19.42%)、「トイレの中」(18.71%)、「食事中」(10.07%)、「入浴中」(10.07%)であった(図7)。

性別と利用時間帯の各項目を χ^2 検定を行ったところ、女子が「就寝前」($P<0.05$)、「テレビを見ながら」($P<0.05$)、「空き時間」($P<0.05$)、「起床直前」($P<0.01$)において有意に多かった(表2)。

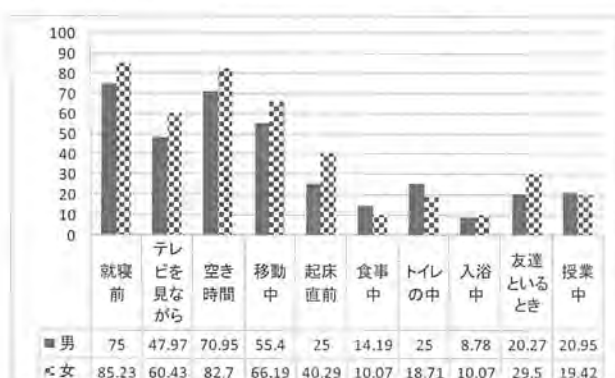


図7 スマートフォンの利用状況率

表2 スマートフォンの利用状況率の男女比較

	男子	女子	自由度	χ^2	p値
就寝前	75.0%	86.3%	1	5.1606	0.023 *
テレビを見ながら	47.9%	60.4%	1	3.9916	0.045 *
空き時間	70.9%	82.7%	1	4.9266	0.026 *
移動中	55.4%	66.1%	1	3.0535	0.080
起床直前	25.0%	40.2%	1	6.9662	0.008 **
食事中	14.1%	10.0%	1	0.7828	0.376
トイレの中	25.0%	18.7%	1	1.3108	0.252
入浴中	8.7%	10.0%	1	0.0293	0.864
友達といるとき	20.2%	29.5%	1	2.8003	0.094
授業中	20.9%	19.4%	1	0.0302	0.862

4) スマートフォンを利用する目的

スマートフォンを利用する目的は、男子で最も多かった回答は「暇つぶし」(82.43%)であり、次いで「コミュニケーションをとる」(60.81%)、「情報収集」(47.30%)、「友達の近況を知る」(21.62%)、「ストレス解消」(11.49%)、「気楽に投稿やシェアする」(11.49%)、「他人の意見を知る」(4.05%)、「友達を作る」(3.38%)、「自分の気持ちを知ってもらう」(1.35%)であった。

女子で最も多かった回答は「暇つぶし」(80.58%)であり、次いで「コミュニケーションをとる」(66.91%)

、「情報収集」(43.17%)、「友達の近況を知る」(26.62%)、「気楽に投稿やシェアする」(12.95%)、「ストレス解消」(10.07%)、「他人の意見を知る」(3.60%)、「自分の気持ちを知ってもらう」(1.44%)、「友達を作る」(0%)であった(図8)。

性別と利用目的の各項目を χ^2 検定を行ったところ、男女間に有意差は見られなかった。

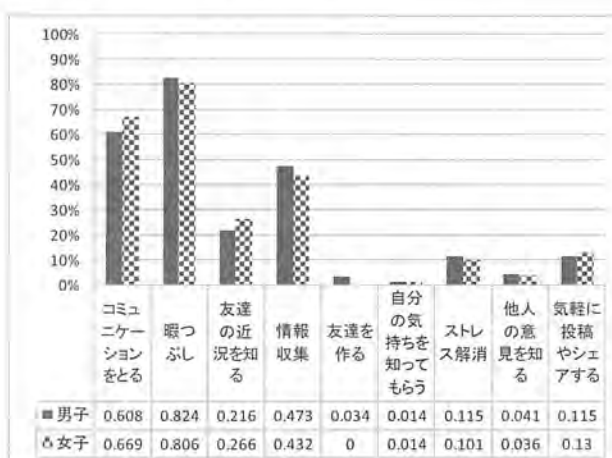


図8 スマートフォンを利用する目的

(2) インターネットの依存傾向

インターネットの依存傾向は、男子で最も多かったのは「インターネット依存傾向は低い」(66.89%)であり、次いで「中程度」(33.11%)であり、「インターネット依存傾向が高い」(0%)ものはいなかった。女子で最も多かったのは「インターネット依存傾向が中程度」(49.64%)であり、次いで「インターネット依存傾向は低い」(48.92%)であり、「インターネット依存傾向が高い」(1.44%)であった(図9)。

性別比較の平均点においては、男子の平均点は、36.82点であり、女子は40.99点であり、点数で比較すると女子が有意に高い結果となった($P<0.001$)。

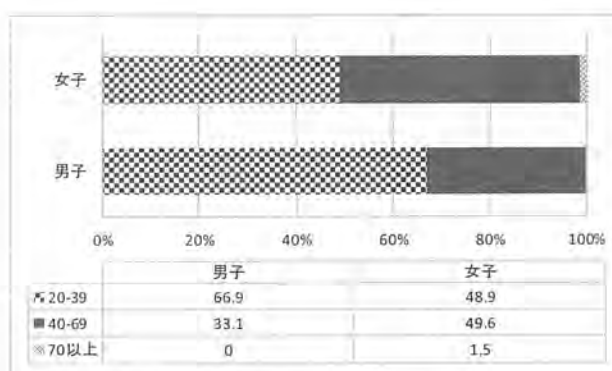


図9 インターネット依存傾向の割合

5 考察

A 大学生の情報通信機器の利用率は、男女ともにスマートフォンの利用（男子98.90%、女子90.70%）が最も高い結果となったが、この結果は、マイナビが2017年に大学卒業者に調査した結果²⁾（98.8%）とほぼ同様であった。大学生のスマートフォン利用率の高いことが、インターネット依存傾向に繋がることは予測できるが、本研究においては、利用率は男子が高く、依存傾向は女子が高いという矛盾する結果となっていた。

又、A 大学生の利用する情報通信機器において、ゲーム機の利用についてのみ男子が有意に高い結果となったが、この事は、平日の情報通信機器利用時間についても同じ傾向であり、ゲーム機のみ男子に有意に利用時間が長い結果となっている。又、2016年に湯本が報告した、中学生の情報通信機器利用状況や平日の利用時間についても男子がゲーム機の利用が高い結果となり、A 大学生と同じ傾向であった⁷⁾。

インターネット依存傾向については、男子の平均点は36.82点と依存傾向はぎりぎり「低」であったが、女子は40.99点であり、依存傾向「中」という結果であった。又、女子に1人ではあるが依存傾向が「高」であった。インターネット依存傾向の平均点は、女子が有意に依存度が高い結果となった。岡安は、インターネット依存のリスク要因として、現実社会での対人関係において満足感を得られていない人ほど、その代替となる対人関係をインターネット上に求め、インターネット依存に陥るのではないかと仮定し調査した結果、社会的不適応や孤独感がインターネット依存の重要なリスク要因であるのではないかと報告している⁸⁾。

石川（2006年）⁹⁾や鶴田他（2014年）¹⁰⁾らは、女性が男性よりもインターネットや携帯電話に対する依存傾向が高い傾向にあり、女性は男性よりも「つながる安心感（他者とつながりを保つことで安心すること）」を求める傾向があり、それがインターネット・コミュニケーションの長時間利用や依存に影響することを報告している。

6 まとめ

本研究において、A 大学生の情報通信機器利用状況やインターネット依存傾向について男女比較結果が明らかとなり、特にスマートフォンの利用が男女共に高率であり、インターネット依存傾向については、高度の者は少ないが、中程度の者は女子で約5割、男子で約3割お

り、女子が有意に高い結果となった。

岡安は、現実社会での対人関係において満足感を得られていない人ほど、その代替えとなる対人関係をインターネット上に求めることにより、インターネット依存に陥るリスクが高められるのではないかと仮定している¹⁰⁾が、今後は、インターネット依存と生活面や「うつ傾向」などの精神的な健康度との関連について研究を進めることにより、インターネット依存傾向が男子より女子に高い要因についても探っていきたい。

【引用文献】

- 1) 内閣府（2017）『平成28年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果』
- 2) マイナビ（2018）『2018年マイナビ新入社員意識調査結果』
- 3) 総務省情報通信政策研究所（2018）『H29年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告』
- 4) 松嶋公望他（2017）「大学生版スマートフォン依存傾向尺度作成の試み」『千葉大学教育学部研究紀要』第66巻、283-291
- 5) Young, K.S. (1998). Caught in the net how to recognize the signs of Internet addiction and a winning strategy for recovery. (小田嶋由美子（訳）（1998）「インターネット中毒—まじめな警告です—」『毎日新聞社』
- 6) Block, JJ (2008). Issues for DSM-V: Internet addiction. *American Journal of Psychiatry*. 165, 306-307
- 7) 湯本里紗（2015）「中学生の情報通信機器の利用について—利用実態・生活習慣・依存傾向・学校適応との関連—」『福山平成大学福祉健康学部紀要』第12号、34-39
- 8) 石川勝博（2006）「大学生のケータイ・コミュニケーションにみられる男女差」『基督教大学学術教育研究』第48号、185-194
- 9) 鶴田利郎他（2015）「高校生向けインターネット依存傾向測定尺度の開発」『日本教育学会論文誌』第37号、491-504
- 10) 岡安孝弘（2015）「インターネット依存の心理社会的影響及びリスク要因に関する研究の動向」『明治大学真理社会学研究』第11、23-45

A Criticisms of the effects of SNS and internet usage on the university students

—A comparison between males and females—

Masako NAKAMURA¹, Masayasu FUKUI², Sachiko SUGIYAMA³

1 Heisei, Fukuyama University health sport science department

2 Heisei, Fukuyama University Business Administration Department

3 Kansai Welfare University School of Nursing

Abstract

In July 2017, a survey was conducted on 287 health and sports oriented university students; 148 male and 139 female, this helped delineate possible male/female differences in internet/communication equipment addictions.

While smartphone usage was comparable between males and females, games machine usage was significantly higher in males.

Period of time using smartphone is before bed, just after waking, while watching TV was significantly higher in females.

Regarding addiction of interest services, we have results that males average is 36.82 points and females average is 40.99, and female is significantly higher than male.

No difference of utilization purpose between males and females.

KEY WORDS : university student, information and communication instrument use,
Internet-dependent